

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號二第卷一十五第

月八年五十和昭

哀辭 故財部教授遺影署名及原稿

論叢

支那の農家負債と農地の抵押……………經濟學博士 八木芳之助
水産資源の保全について……………經濟學博士 蜷川虎三

時論

東亞新秩序建設と新國民政府の發展性……………文學博士 矢野仁一

研究

民國初期の兌換券……………經濟學士 徳永清行
自由貿易主義の吟味……………經濟學士 岡倉伯士

記事

財部教授逝く
故財部教授年譜及著書論文目錄

追憶文

神戶正雄 本庄榮治郎 蜷川虎三
木村喜一郎 吳文炳 宗藤圭三
青盛和雄 松岡孝兒 石川興二
黒正巖 藤本幸太郎 谷口吉彦
岡崎文規

附錄

彙報

外國雜誌論題

財部先生の憶出

松岡孝兒

召集といふものは恐ろしいものである。元來物覺が
いくといふわけではなかつたが、しかし私は三年前召
集され二年半して歸つて來て見ると自分の周圍のもの
で覺えてゐなければならぬ管の出來事で失念しかか

つてゐるものまたは失念してゐるものが相當にある。

がしかし財部先生が召集前一度御重體になられもう時間の問題だといはれて友人と一緒に文字通りあはてふためいて病院に伺つたこと、ところが間もなく病勢一轉して死線を越えられた先生の顔を拜したることなどははつきり覚えてゐるのである。今ではこれも先生への懐しい憶出の一つである。

今度召集解除となつて歸つて來ると私は元氣な先生に事務室でお目にかかつた。丁度先生も講義をすまされ書時分だったので晝飯を食べに出かけないかといふお話だつたが、非常に忙しくしてゐた私には次の機會を御約束して失禮した。それきり先生にはお目にかかる折がなかつた。そのうちにお悪いといふことを伺ひながらもまたすぐ此の前のやうにお癒りになるといふ感じが去らなかつた。ところが七月七日その前日御病氣はお悪くないといふ大學からの通知に背いて御永眠を承はり唯呆然としてしまつた。

たしか私が大學を出て助手になつた年に先生は經濟

學部長をお勤めになつて居られた。勿論まだ御元氣盛りでいつも部長室に伺ふと必ずたつて御話された。凡そ講義で受けた感じとは全く別ないかにも事務的な御様子が今でも眼にうかぶ。

時に思ひ出されたやうにお話を承はつたりしたが私にはフランス經濟の話が多かつた。本の名に詳しく、またその内容もよく諳んじて居られ、私もそのお話で名著の翻譯を思ひたつたことは一度や二度ではなかつた。殊に *Simonde de Sismondi の Nouveaux Principes d'Economie Politique* は今だに氣になつて時々思ひかへしてゐる。當時日本の經濟學界が著しく思想的に展開しつゝあつた頃の先生の御考も偲ばれて今は一しほ心残りである。

先生の風格は文章や字體にもよく伺はれた。入學早々の統計學の講義にはなやまされたが、併し卒業後讀んで見ると含蓄のあること多く、誠にはづかしい憶ひ出であるがその文章も中々凡人離れがしてゐて、我々同志にはよく、先生の文體を眞似るものがあつたりし

た。

字體も風格があり、いつも正しくかかれてゐたやうである。年賀状などの字は大い物なれた風にかくものだけれども先生のはいつもおろそかにかかれたやうな感じが微塵もなかつた。とりわけ經濟論叢の原稿など一々區劃にあはせておかきになつて校正の時などはんとうに恐縮したものであつた。

丁度昭和十二年十月に私は召集電報を受けとつたのであるが、その時學部の教官の壯行會があつた。先生と學部の會合でおめにかかることは珍らしかつたが會食の途中先生はたつて朗々と送別の辭を讀んで下さつた。あとでその送別の辭をお書きになつたものを下さつたが、其後お挨拶にまた伺つた時にあれは出來がわるいからと云はれて書き直されたものを改めて下さつたのである。大切に保存してゐたが今回召集解除となつてから思ひ出として開いて見るとそれには「競争文王の圍」と墨痕まことに鮮かに書かれてゐた。召集中いくたびか文王の圍にはいることはできたが何の手柄

も獲ものもなく誠に碌々として歸つて來てしまつたのであるが、その芳墨も今は先生から私に残された唯一の手跡となつてしまつた。

先生はたしか御病氣になるまでは眞如堂前の御陵の東隣に居られたやうに記憶する。學生時代を神樂岡に送つた私は朝晩よく先生にお目にかかつたが御挨拶をするといつも「ヤア」と一聲大きく云はれるのが例であつた。助手時代急用でお宅へお伺ひしても「あとで部長室で聞くから」と云はれたこととあはせ今は何れもなつかしい先生の風格である。